はじめに

このたびは、「SoftBank 840SC」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- SoftBank 840SC をご利用の前に、「クイックスタート」、「お願いとご注意」および「取扱説明書（本書）」をご覧になり、正しくお取り扱いください。
- ご契約の内容により、ご利用になれるサービスが限定されます。
- SoftBank 840SC は、3G 方式に対応しております。

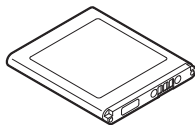
ご注意

- 本書の内容の一部でも無断転載することは禁止されております。
- 本書の内容は将来、予告無しに変更することがございます。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や記載漏れなどお気づきの点がございましたら、お問い合わせ先（➔P.15-32）までご連絡ください。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

本書の最新版は、ソフトバンクモバイルのホームページよりダウンロードできます。
http://www.softbank.jp/mb/r/support/840sc/

お買い上げ品の確認

SoftBank 840SC 本体のほかに、次の付属品がそろっていることをお確かめください。付属品は、オプション品としても取り扱いしております。
付属品、オプション品につきましては、お問い合わせ先(➔P.15-32)までご連絡ください。

電池パック［SCBAM1］

クイックスタート

お願いとご注意

保証書

- 840SC の充電には、ソフトバンクが指定した充電器(オプション品)を使用してください。
- 840SC では microSD™ ／ microSDHC™ メモリカードに対応しています。ご利用にあたっては、市販の microSD™ ／ microSDHC™ メモリカードを購入してください。
- 本書では、microSD™ ／ microSDHC™ メモリカードを「メモリカード」と記載しています。
- Samsung New PC Studio は、SAMSUNG ホームページ(http://jp.samsungmobile.com/pc/lineup/840download.html)からダウンロードしてご利用いただけます。

メモ

本書の構成

説明	章	番号
840SC をお使いになるための準備や基礎的な知識、基本的な共通操作をまとめて説明しています。必ずお読みください。	準備／基礎知識	1
	共通機能／共通操作	2
840SC の代表的な機能を、章単位でまとめて説明しています。お使いになりたい機能の章をお読みください。	電話	3
	メール	4
	インターネット	5
	テレビ	6
	カメラ／静止画編集	7
	メディアプレイヤー	8
840SC で利用できるその他の便利なツール（道具）やサービスについて説明しています。	エンタテイメント	9
	ツール	10
840SC のセキュリティを強化する機能を説明しています。	セキュリティ	11
840SC でのデータの管理方法について説明しています。	データフォルダ／メモリ	12
データ通信やパソコン接続、データのバックアップについて説明しています。	通信／バックアップ	13
840SC を使いこなすためのカスタマイズ方法について説明しています。	カスタマイズ	14
840SC についての資料や各種情報、索引をまとめています。	資料／付録	15

SoftBank

SoftBank 840SC
クイックスタート

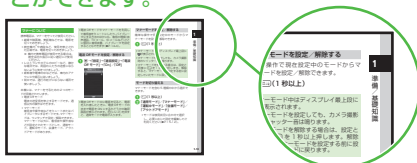
最初に
「クイックスタート」
をお読みください。

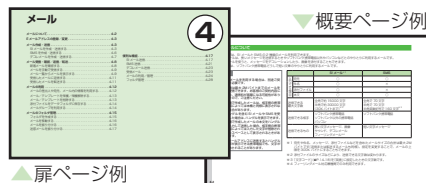
機能の探しかた

パラパラとめくって探す

本機の新しい魅力を発見しましょう。

各誌面の内容は説明のためのサンプルです。実際の誌面とは異なります。

ページの端にはサイドインデックスが付いています。目的の章をすばやく確認することができます。

- 各ページでは上の例のように、縦組み文字で章の番号とタイトルが書かれています。本書を閉じていても、章の区切りがわかりやすくなっています。

章の始まりには、扉ページが付いています。区切りの目安にしましょう。

- 章の冒頭などには、その章で説明する機能やサービスの内容をまとめた概要ページがあります。ここで全体像をつかんでください(一部ない章もあります)。

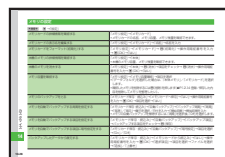
説明ページのレイアウトはいくつかのパターンに分かれています。それぞれのパターンの意味を覚えておけば、必要な箇所だけを読むことができます。

●基本操作パターン

機能やサービスの基本操作を説明しているページです。章や項目の前半にあります。

●応用操作パターン

機能やサービスの応用的な操作を説明しているページです。章の後半にあります。

●設定操作パターン

本機の設定変更を説明しているページです。カスタマイズの章にあります。

全体像が一覧できる「目次」と、章内の内容がわかる「章目次」を活用しましょう。

▼章目次

▲目次

●「目次」には、この取扱説明書の章構成と各章内の見出しが記載されています。また、各章の扉ページに入っている「章目次」は、章内の内容が詳しく記載されています。目的に応じて使い分けてください。

用語と目的機能で引ける3つの「索引」で目的の機能や用語をすばやく見つけましょう。

▼目的別索引

▲用語索引

●本機内の用語があいうえお順に並んでいる「用語索引」と、「登録する」「消去する」などの目的別にまとめた「目的別索引」、応用操作のある機能をまとめた「便利な機能索引」を「資料／付録」の章に掲載しています。ご活用ください。

目的の機能や用語を探す

いろいろな方法で、検索が行えます。

各誌面の内容は説明のためのサンプルです。実際の誌面とは異なります。

メニューなどの項目の意味や操作を調べるときは、「機能一覧」がおすすめです。

●「資料／付録」の章の「機能一覧」は、本機のメニュー構造に沿って、各項目の掲載ページを記載しています。操作中に気になる項目があれば、ここからすぐにジャンプできます。

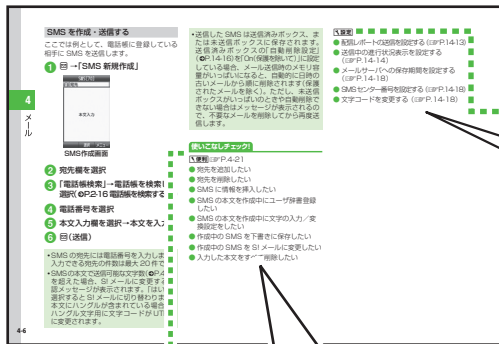
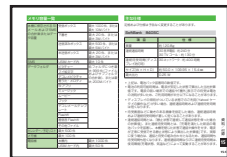
画面に表示されるアイコンの意味を知りたいときは、「ディスプレイ」をご覧ください。

●「準備／基礎知識」の章にある「ディスプレイ」では、ディスプレイに表示されるアイコンの意味を掲載しています。知らないアイコンが表示されたときは、すぐに確認しましょう。

表示やアイコンの意味を探す

気になる項目やアイコンを調べましょう。

各誌面の内容は説明のためのサンプルです。実際の誌面とは異なります。

本書の記載パターン

各誌面の内容は説明のためのサンプルです。実際の誌面とは異なります。

設定操作パターン

各機能のカスタマイズ方法を表形式で説明しています。

メモリの設定

共通操作 ■→「設定」

メモリカードの詳細情報を確認する	…メモリカード」 •メモリカ…
メモリカードの表示名を編集する	「メモリ設定」→「メモリカード」→「名前」…
メモリカードをフォーマット(初期化)する	「メモリ設定」→「メモリカード」→⊠(初期化)→操作用暗証番号を入力→■(OK)→「はい」
本機のメモリの詳細情報を確認する	「メモリ設定」→「本体」 •本機のメモリ容量、メモリ残量を確認できます。
本機のメモリを消去する	「メモリ設定」→「本体」→⊠(消去)→項目をチェック→⊠(消去)→操作用暗証番号を入力→■(OK)→「はい」
メモリ容量を確認する	「メモリ設定」→「メモリ容量確認」→項目を選択 •「データフォルダ」を選択した場合は、「本体メモリ」/「メモリカード」を選択します。 •確認したメモリを削除するには⊠(削除)を押します(➡P.12-14 登録/保存した内容を削除してメモリを整理したい)。
メモリのバックアップをとる	「メモリカード保存・読込み」→「メモリカードへ保存」→「はい」→操作用暗証番号を入力→■(OK)→項目を選択→「はい」
メモリを自動でバックアップする周期を設定する	「メモリカード保存・読込み」→「自動バックアップ」→「バックアップ周期」→「周期」→「毎週」/「毎月」→曜日を選択/日付を入力→「開始時間」→開始時間を入力 •メモリの自動バックアップを解除するには、「周期」を選択後、「Off」を選択します。
メモリを自動でバックアップする項目を設定する	「メモリカード保存・読込み」→「自動バックアップ」→「バックアップ項目」→バックアップする項目をチェック→⊠(保存)
メモリを自動でバックアップする項目に暗号設定をする	「メモリカード保存・読込み」→「自動バックアップ」→「暗号設定」→項目を選択→「On」/「Off」
バックアップしたデータから復元する	「メモリカード保存・読込み」→「メモリカードから読込み」→「はい」→操作用暗証番号を入力→■(OK)→「選択項目」→項目を選択→ファイルを選択→「追加」/「上書き」

カスタマイズ 14

14-28

応用操作パターン

各機能の応用操作を統一フォーマットで簡単に説明しています。
使いこなしチェックで記載されている機能のほかにも、さまざまな応用操作が記載されています。

便利な機能

待受画面の設定

スライドショーを編集したい
■→「設定」→「ディスプレイ設定」→「壁紙」→「スライドショー」

■静止画を変更するとき
【メニュー】→「画像変更」→静止画を選択→⊠(完了)
•メモリカードを取り付けているときは、「デジタルカメラ」フォルダからファイルを選択することができます。

■静止画の順序を変更するとき
静止画を選んで【メニュー】→「並べ替え」→⊠で静止画を挿入する位置へ移動→■(保存)

■静止画を削除するとき
静止画を選んで【メニュー】→「削除」→「はい」

文字入力

日付や時刻を入力したい
文字入力画面で漢字/かな入力モードにし、数字が割り当てられているボタンを押してひらがなを入力→【メニュー】(英数カナ)→日付や時刻の変換候補を選んで■(選択)

記号/絵文字/顔文字の候補表示のページを移動したい
文字入力画面で、記号/絵文字/顔文字の候補表示エリアの表示中に⊠/【メニュー】

範囲を指定して文字のコピー/カットをしたい
文字入力画面で【メニュー】→「編集」→「コピー」/「カット」→コピー/カットをする最初の文字を選んで■(始点)→最後の文字を選んで範囲を指定→■(終点)
•文字入力画面上のすべての文字をコピー/カットする場合は、【メニュー】(全て)を押します。
•コピー/カットを行うと、コピー/カットをした内容は電源を切っても保持されます。

コピー/カットした文字を貼り付けたい
文字入力画面で文字を貼り付ける位置にカーソルを移動→【メニュー】→「編集」→「貼り付け」

文字を元に戻したい
文字入力画面で【メニュー】→「編集」→「元に戻す」
•漢字/かな入力モードで直前に行った文字の入力や切り取り、貼り付け、削除などの操作を元に戻すことができます。変換した文字を元に戻すこともできます。

本機に保存した情報を挿入したい 【挿入】
文字入力画面で【メニュー】→「挿入」

■メモ帳の文字を挿入するとき
「メモ帳」→メモ帳を選択

■バーコードから読み取った文字を挿入するとき
「バーコードリーダー」→バーコードの読み取り操作(➡P.10-9)

■電話帳の情報を挿入するとき
「電話帳引用」→電話帳を検索し、選択(➡P.2-16)→項目を選択

■オーナー情報を挿入するとき
「オーナー情報引用」→項目を選択

■署名を挿入するとき
「署名」

■メールアドレス/URLの一部を挿入するとき
「簡単アドレス入力」(➡P.2-13)
•文字入力画面によっては、挿入できない項目もあります。

文字入力中にカーソルを文頭/文末に移動させたい 【カーソル移動】
文字入力画面で【メニュー】→「カーソル移動」→項目を選択

2 共通機能/共通操作

2-18

表記の見かた

本書では、「SoftBank 840SC」を「本機」と表記しています。あらかじめご了承ください。
また、主にお買い上げ時の状態を基準に説明しているため、設定を変更された場合、本機の表示や動作が本書の記載と異なることがあります。

ディスプレイの表記と本機のイラストについて

記載している画面は、表示されている内容や番号などが実際の画面と異なる場合があります。操作の目安としてご利用ください。
本書のイラストはイメージイラストであり、実際の商品とは形状が異なる場合があります。
本書では、画面を見やすくするために、待受画面の壁紙の設定を「なし」にした状態で掲載している場合があります。

確認／警告メッセージについて

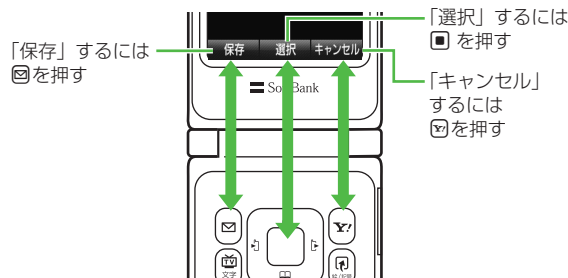
操作中、本書に記載していないメッセージが表示されることがあります。確認や警告のメッセージが表示されたときは、そのメッセージをよく読んで内容をご確認ください。

ボタンの使いかたと表記について

本書では、本機のボタンをすべて記号で表記しています。「各部の名称と機能」(➔P.1-3)を参照してください。

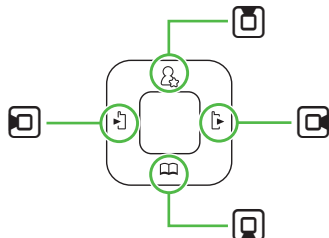
ソフトキーとマルチファンクションボタンの操作については、次のように表記しています。

ソフトキー

ディスプレイの最下段(ソフトキーエリア)には「選択」「保存」のような、操作や設定の選択肢が表示されます。これらの内容を実行するには、その表示位置に対応するソフトキーを押します。

ソフトキー操作の表記

マルチファンクションボタン

マルチファンクションボタンは、上下左右の４箇所を押せるボタンです。目的の項目を選択するときや文字入力画面でカーソルを移動するとき、画面をスクロールするときなどに使います。

マルチファンクションボタン操作の表記

または　を押すとき：
または　を押すとき：
、　、　、　を押すとき：

メニュー操作の表記について

メインメニュー操作やメニュー操作は、簡略化した表記方法で説明しています。

メインメニュー操作

メインメニュー項目を選んで（選択）を押す操作を繰り返すことを示す

メニュー操作

「選択」について

項目や文字列の選択画面などで目的の位置にカーソルを移動させて（選択）を押すことを、この取扱説明書では「選択」と表記します。

「選んで」について

項目や文字列の選択画面などで目的の位置にカーソルを移動させることを、この取扱説明書では「選んで」と表記します。
主に、項目にカーソルを移動させた後、または　で操作を行うときに使用しています。

目次

7 カメラ／静止画編集

8 メディアプレイヤー

9 エンタテイメント

10 ツール

11 セキュリティ

12 データフォルダ／メモリ

13 通信／バックアップ

14 カスタマイズ

15 資料／付録

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになったあとは大切に保管してください。

- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 本製品の故障、誤動作または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

表示	内容
危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※1を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷※1を負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷※2を負う可能性が想定される場合および物的損害※3のみの発生が想定される」内容です。

※1 重傷とは、失明・けが・高温やけど・低温やけど（体温より高い温度の発熱体を長時間肌にあてていると紅斑、水疱などの症状を起こすやけど）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院や長期の通院を要するものをさします。

※2 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

絵表示	内容
禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示します。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示します。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示します。
指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	プラグをコンセントから抜いていただくことを示します。

本機、電池パック、USIM カード、充電器（オプション品）、メモリカード（オプション品）の取り扱いについて（共通）

本機に使用する電池パック･充電器（オプション品）は、ソフトバンクが指定したものを使用してください。

指定品以外のものを使用した場合は、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や、充電器の発熱・発火・故障などの原因となります。

分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしないでください。

火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。また、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因となります。
電話機の改造は電波法違反となり、罰則の対象となります。

本機内部・電池パック・充電器を濡らさないでください。

水やペットの尿などの液体が入ったときに、濡れたまま放置したり、濡れた電池パックを充電すると、発熱・感電・火災・けが・故障などの原因となります。
使用場所、取り扱いにご注意ください。

高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で充電・使用・放置しないでください。

機器の変形・故障や電池パックの漏液・発熱・発火・破裂の原因となります。また､ケースの一部が熱くなり､やけどなどの原因となることがあります。

本機に電池パックを取り付けたり、充電器を接続する際、うまく取り付けや接続ができないときは、無理に行わないでください。電池パックや端子の向きを確かめてから、取り付けや接続を行ってください。

電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

本機・電池パック・充電器を、加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH 調理器）の上に置いたりしないでください。

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や、本機と充電器の発熱・発煙・発火・故障などの原因となります。

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所（ガソリンスタンドなど）では、必ず事前に本機の電源をお切りください。また、充電もしないでください。

本機の熱でガスに引火する恐れがあります。
プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。

落としたり、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や火災・感電・故障などの原因となります。

使用中、充電中、保管時に、異音・発煙・異臭など、今までと異なることに気づいたときは、次の作業を行ってください。

1 コンセントから充電器を持ってプラグを抜いてください。
2 本機の電源を切ってください。
3 やけどやけがに注意して、電池パックを取り外してください。

異常な状態のまま使用すると、火災や感電などの原因となります。

充電端子や外部接続端子に水やペットの尿などの液体や導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないようにしてください。また内部に入れないようにしてください。

ショートによる火災や故障などの原因となります。

注意

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

落下して、けがや故障などの原因となります。バイブレータ設定中や充電中は、特にご注意ください。

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

子供が使用する場合は、保護者が取り扱い方法を教えてください。使用中においても、指示どおりに使用しているかをご注意ください。

けがなどの原因となります。

電池パックの取り扱いについて

危険

電池パックのラベルに記載されている表示により、電池の種類を確認した上で、ご利用・処分をしてください。

表示	電池の種類
Li-ion00	リチウムイオン電池

火の中に投下しないでください。

電池パックを漏液・破裂・発火させるなどの原因となります。

釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、強い衝撃を与えないでください。

電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

電池パックの端子に、針金などの金属類を接触させないでください。また、導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）と一緒に電池パックを持ち運んだり保管したりしないでください。

電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

電池パック内部の液が眼の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗い流し、ただちに医師の診察を受けてください。

失明などの原因となります。

警告

電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、ただちに本機の使用をやめ、きれいな水で洗い流してください。

皮膚に傷害を起こすなどの原因となります。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。

電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

電池パックの使用中・充電中・保管時に、異臭・発熱・変色･変形など、今までと異なることに気づいたときは、やけどやけがに注意して電池パックを取り外し、さらに火気から遠ざけてください。

異常な状態のまま使用すると､電池パックを漏液･発熱･破裂・発火させるなどの原因となります。

注意

不要になった電池パックは、一般のゴミと一緒に捨てないでください。

端子にテープなどを貼り、個別回収に出すか、最寄りの｢ソフトバンクショップ｣へお持ちください。
電池を分別している市町村では、その規則に従って処理してください。

本機の取り扱いについて

警告

自動車、バイク、自転車などの乗り物の運転中には使用しないでください。

交通事故の原因となります。
乗り物を運転しながら携帯電話を使用することは、法律で禁止されており、罰則の対象となります。運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてからご使用ください。

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本機の電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

※ ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器・植込み型心臓ペースメーカ・植込み型除細動器・その他の医用電気機器・火災報知器・自動ドア・その他の自動制御機器など

本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあるため、航空機内では電源をお切りください。

機内で携帯電話が使用できる場合は、航空会社の指示に従い適切にご使用ください。

心臓の弱い方は、着信時のバイブレーション（振動）や着信音量の設定に注意してください。

心臓に影響を与える恐れがあります。

屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、ただちに電源を切って屋内などの安全な場所に移動してください。

落雷や感電の原因となります。

指示

赤外線ポートを目に向けて送信しないでください。

目に影響を与える可能性があります。

禁止

⚠ 注意

車両電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。

本機を自動車内で使用すると、車種によりまれに車両電子機器に影響を与え、安全走行を損なう恐れがあります。

禁止

本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。

本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります。
本機で使用している材料については、「使用材料、表面処理」(➔P.15-18)を参照してください。

指示

本機に磁気カードなどを近づけたり、挟んだりしないでください。

キャッシュカード･クレジットカード･テレホンカード･フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

禁止

ストラップなどを持って本機をふり回さないでください。

本人や周りの方に当ったり、ストラップが切れたりして、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

禁止

本機を長時間ご使用になる場合、特に高温環境では熱くなることがありますので、ご注意ください。

長時間肌にふれたまま使用していると、低温やけどになる恐れがあります。

指示

着信音が鳴っているときや、本機でメロディを再生しているときなどは、スピーカーに耳を近づけないでください。

難聴になる可能性があります。

禁止

デジタルテレビを視聴するときは、充分明るい場所で、画面からある程度の距離を空けてご使用ください。

視力低下につながる可能性があります。

指示

イヤホンを使用するときは音量に気をつけてください。

長時間使用して難聴になったり、突然大きな音が出て耳をいためたりする原因となります。

指示

充電器（オプション品）の取り扱いについて

警告

充電中は、布や布団でおおったり、包んだりしないでください。

熱がこもって火災や故障などの原因となります。

指定以外の電源・電圧で使用しないでください。

指定以外の電源・電圧で使用すると、火災や故障などの原因となります。

- AC アダプタ（オプション品）
  AC100V ～ 240V（家庭用 AC コンセント専用）

長時間使用しない場合は、充電器を持ってプラグをコンセントから抜いてください。

感電・火災・故障の原因となります。

万一、水やペットの尿などの液体が入った場合は、ただちに充電器を持ってコンセントからプラグを抜いてください。

感電・発煙・火災の原因となります。

プラグにほこりがついたときは、充電器を持ってプラグをコンセントから抜き、乾いた布などでふき取ってください。

火災の原因となります。

充電器をコンセントに差し込むときは、充電器のプラグや端子に導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないように注意して、確実に差し込んでください。

感電・ショート・火災などの原因となります。

濡れた手で充電器のプラグを抜き差ししないでください。

感電や故障などの原因となります。

雷が鳴り出したら、充電器には触れないでください。

感電などの原因となります。

注意

お手入れの際は、コンセントから、必ず充電器を持ってプラグを抜いてください。

感電などの原因となります。

充電器をコンセントから抜くときは、コードを引っ張らず、充電器を持ってプラグを抜いてください。

コードを引っ張るとコードが傷つき、感電や火災などの原因となります。

充電器をコンセントに接続しているときは、引っ掛けるなど強い衝撃を与えないでください。

けがや故障の原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

● ここで記載している内容は、「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会［平成９年４月］）に準拠、ならびに「電波の医用機器等への影響に関する調査研究報告書」（平成 13 年３月「社団法人電波産業会」）の内容を参考にしたものです。

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、ペースメーカ等の装着部位から 22cm 以上離して携行および使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

自宅療養など医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどに確認してください。

電波により医用電気機器の作動に影響を与える場合があります。

医療機関などでは、以下を守ってください。本機の電波により医用電気機器に影響を及ぼす恐れがあります。

● 手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視病室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
● 病棟内では、本機の電源を切ってください。電源が自動的に入る設定（アラーム機能など）をしている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
● ロビーなど、携帯電話の使用を許可された場所であっても、近くに医用電気機器があるときは本機の電源を切ってください。
● 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

満員電車などの混雑した場所にいるときは、本機の電源を切ってください。付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている方がいる可能性があります。電源が自動的に入る設定（アラーム機能など）をしている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。

電波により、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

お願いとご注意

ご利用にあたって

- 事故や故障などにより本機またはメモリカードに登録したデータ（電話帳、画像、サウンドなど）が消失・変化した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。大切な電話帳などのデータは、控えをとっておかれることをおすすめします。
- 本機は、電波を利用しているため、特に屋内や地下街、トンネル内などでは電波が届きにくくなり、通話が困難になることがあります。また、通話中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通話が急に途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本機を公共の場所でご利用いただくときは、周りの方の迷惑にならないようにご注意ください。
- 本機は電波法に定められた無線局です。したがって、電波法に基づく検査を受けていただくことがあります。あらかじめご了承ください。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで本機を使用すると、雑音が入るなどの影響を与えることがありますので、ご注意ください。
- **傍受（ぼうじゅ）にご注意ください。**

  本機は、デジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を利用している関係上、通常の手段を超える方法をとられたときには第三者が故意に傍受するケースもまったくないとは言えません。この点をご理解いただいたうえで、ご使用ください。
  - **傍受とは**

    無線連絡の内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信することです。

自動車内でのご使用にあたって

- 運転中は、本機を絶対にご使用にならないでください。
- 本機をご使用になるために、禁止された場所に駐停車しないでください。
- 本機を車内で使用したときは、自動車の車種によって、まれに車両電子機器に影響を与えることがありますので、ご注意ください。

航空機の機内でのご使用について

- 本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあるため、航空機内では電源をお切りください。

  機内で携帯電話が使用できる場合は、航空会社の指示に従い適切にご使用ください。

機能制限について

- 機種変更または解約した場合、本機では次の機能が利用できなくなります。
  - カメラ
  - メディアプレイヤー
  - S! アプリ
  - テレビ
- 本機を長期間お使いにならなかった場合、上記の機能が利用できなくなる可能性があります。

お取り扱いについて

- 本機の電池パックを長い間外していたり、電池残量のない状態で放置したりすると、お客様が登録、設定した内容が消失または変化してしまうことがありますので、ご注意ください。なお、これらに関しまして発生した損害につきましては、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機は 5 ～ 35℃の範囲でご使用ください。極端な高温や低温環境、直射日光の当たる場所でのご使用、保管は避けてください。
- カメラ部分に、直射日光が長時間当たると、内部のカラーフィルターが変色して、映像が変色することがあります。
- 本機を落下させたり衝撃を与えたりしないでください。
- お手入れは、乾いた柔らかい布などで拭いてください。また、アルコール、シンナー、ベンジンなどを用いると色があせたり、文字が薄くなったりすることがありますので、ご使用にならないでください。
- 本機は精密部品で作られた無線通信装置です。絶対に分解、改造はしないでください。
- 本機のディスプレイを堅いものでこすったり、傷つけないようにご注意ください。
- ステレオヘッドフォンの中には開放型のものがあり、音が外に漏れることがあります。周りの方の迷惑にならないようにご注意ください。
- 本機に無理な力がかかるような場所には置かないでください。故障やけがの原因となります。
  - 本機をズボンやスカートのポケットに入れたまま、しゃがみこんだり座席や椅子などに座らないでください。特に、厚い生地の衣服のときはご注意ください。
  - かばんなどに入れるときは、重たいものの下にならないようにご注意ください。
- 本機の充電端子／外部接続端子に指定品以外の商品は取り付けないでください。誤動作を起こしたり、本機を傷めることがあります。
- 電池パックを取り外すときは、必ず本機の電源を切ってから取り外してください。データの登録やメールの送信などの動作中に電池パックを取り外さないでください。データの消失、変化、破損などの恐れがあります。

ボタン操作面がふくらむ現象について

- 電池カバーを取り付けた場合や、急激な気圧の変化（高山地帯や飛行機の搭乗中など）によりボタン操作面がふくらむことがありますが、異常ではありません。しばらくすると元に戻ります。
- 空気が本機内部に入ったときは、端子キャップを開けることでも空気が抜けます。
- 電池カバーを閉じるときは、外部から空気が入らないようにゆっくりと閉じてください。
- ボタン操作面のふくらんだ部分を強く押したり、先のとがったもので傷つけないようにしてください。しばらくすると元に戻ります。

防水について

本機の防水性能

本機は、端子キャップをしっかりと閉じ、電池カバーを取り付けてロックした状態で、IPX5（旧 JIS 保護等級 5）※1、IPX7（旧 JIS 保護等級 7）※2 相当の防水性能があります。

※ 1 IPX5 相当：内径 6.3mm の注水ノズルを使用し、約 3m の距離から約 12.5 リットル／分の水を最低 3 分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、電話機としての機能を保つことを意味します。

※ 2 IPX7 相当：常温で水道水、かつ静水の水深 1m の水槽に本機を静かに沈め、約 30 分間水底に放置しても、電話機内部に浸水せず、電話機としての機能を保つことを意味します。

- **実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。お客様の取り扱いの不備による故障と認められたときは、保証の対象外となりますのでご了承ください。**

ご使用にあたっての注意事項

- 電池カバーは確実にロックし、端子キャップはしっかりと閉じてください。接触面に細かいゴミ（髪の毛 1 本、砂粒 1 粒、微細な繊維など）がわずかでも挟まると、浸水の原因となります。
- 端子キャップや電池カバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、電池パックを外してください。
- 本機が濡れているときは、ボタン操作面やヒンジ部などの隙間から水分が入り込んでくる場合がありますので、水抜きをし、乾いたきれいな布でふき取ってください。濡れたまま放置しないでください。
- 雨がかかっている最中、電話機に水滴がついているとき、または、手や本機が濡れているときは、内部に浸水することを防ぐため、電池カバーや端子キャップの開閉は絶対にしないでください。完全に乾かした後にゆっくりと電池カバーや端子キャップの開閉をしてください。万一水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用せずに電源を切り、電池パックを外した状態で「ソフトバンクショップ」までご連絡ください。
- 端子キャップや電池カバーの周辺が濡れているときは、内部に浸水することを防ぐため、完全に乾かした後にゆっくりとカバーを開閉してください。
- 常温（5℃～ 35℃）の真水・水道水以外の液体につけないでください。

防水（水周りでのご使用）に関するご注意

- 本機に真水や水道水以外の液体（石けん、洗剤、入浴剤を含んだ水／海水／プールの水／温泉／熱湯／薬品／汗など）をかけたり、つけたりしないでください。また、砂や泥が付着しないようにしてください。
- 万一本機に真水や水道水以外の液体が付着してしまった場合は、直ちに水で洗い流してください。やや弱めの水流（6 リットル／分以下、常温（5℃～ 35℃）の水道水）で蛇口やシャワーより約 10cm 離れた位置で洗えます。電池カバーを取り付けてロックした状態で、外部接続端子キャップが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず手で洗ってください。
- 湯船やプールなどにつけないでください。また、水中で使用（本機の開閉やキー操作を含む）しないでください。
- 本機は耐水圧設計ではありません。水道やシャワーなどで強い流水（6 リットル／分を超える）を当てたり、水面に落下させたり、水中に沈めたりしないでください。
- 風呂場など湿気の多い場所には、長時間放置しないでください。また、風呂場で長時間利用しないでください。

- 本機は温度：5℃～ 35℃、湿度：35%～ 90%の範囲でご使用ください（風呂場などでの一時的な使用に限り、温度 36℃～40℃の範囲で可能）。
- 本機は耐熱設計ではありません。サウナでは使用しないでください。また、ドライヤーなどの温風はあてないでください。
- コンロの脇や冷蔵庫の中など極端に高温・低温になるところに置かないでください。
- マイク、レシーバー、スピーカー部の穴に水が入ったときは、一時的に音量が小さくなることがあります。十分に水抜きと乾燥を行ったうえでご使用ください。乾燥後は、通常の音量に戻ります。
- 砂浜、砂場などの砂の上に直接置かないでください。レシーバー、スピーカーなどに砂が入り、音が小さくなる恐れがあります。
- 結露防止のため、寒い場所から風呂場などへは本機が常温になってから持ち込んでください。万一結露が発生したときは、取れるまで常温で放置してください。
- 本機は水に浮きません。
- 強い雨の中では使用しないでください。
- 濡れたまま放置しないでください。寒冷地で凍結するなど、故障の原因となります。

防水性能を維持するためのご注意

- 落下させるなど、本体に強い衝撃を与えたり、マイク、レシーバー、スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。
- 端子キャップや電池カバーのゴムパッキンは防水性能を維持するうえで重要な役割を負っています。はがしたり、傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。
- 端子キャップのすき間に、先のとがったものを差し込まないでください。ゴムパッキンが傷つき、浸水の原因となることがあります。
- イヤホンマイクや充電器などを、端子キャップが反対方向に長時間開くように挿入しないでください。端子キャップが変形してしまうなどして、防水性能が維持できません。
- 端子キャップのゴムパッキンが傷ついたり、変形したときは、ゴムパッキンを交換してください。
- 防水性能を維持するため、ゴムパッキンは異常の有無にかかわらず、2 年ごとに交換することをおすすめします。 ゴムパッキンの交換については、「ソフトバンクショップ」までご連絡ください。
- 電池カバーや端子キャップに劣化、破損があるときは、防水性能を維持できません。その場合は、「ソフトバンクショップ」までご連絡ください。

充電時のご注意

- 充電器·オプション品は、防水対応していません。屋外や風呂場、洗面所など湿気の強い場所や水のかかる可能性のある場所では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。また、充電しないときでも、風呂場などに持ち込まないでください。
- 本機が濡れているときは絶対に充電しないでください。感電や回路のショートなどによる火災・故障の原因となります。
- 外部接続端子の端子キャップを開いて充電したときには、充電後しっかりと端子キャップを閉じてください。
- 濡れた手で充電器に触れないでください。感電の原因となります。
- 充電器は、水周りで使用しないでください。火災・感電の原因となります。

本機が濡れたときの対処は、「水抜きのしかた」（➔P.15-6）を参照してください。

端子キャップが外れたときの対処は、「端子キャップの取り付けかた」（➔P.15-7）を参照してください。

UV チェッカーに関する注意事項

- UV チェッカーを使うときは、正しく測定するため、紫外線センサーを 2 ～ 3 回太陽に向けてください。
- UV チェッカーは天気や周りの建物に影響されるため、正しく測定できないことがあります。
- UV チェッカーは正しく測定できないことがありますので、参考としてご利用ください。
- 紫外線センサーが汚れている（指紋や異物が付いているなど）場合、正しく測定できないことがあります。
- 急激な温度変化によって、紫外線センサーが破損することがありますのでご注意ください。
- 落下させるなど、本体に強い衝撃を与えた場合、紫外線センサーが動作しないことがあります。
- 紫外線センサーが露出された（本機を開いた）状態で、強い日差しや紫外線の中に、放置しないでください。破損することがありますのでご注意ください。
- 本機を閉じた状態では UV チェッカーが動作しません。本機を開いた状態で使用してください。
- 連続で UV チェッカーを使用すると、UV チェッカーが正常に動作しないことがあります。
- 長時間の使用によって、紫外線センサーの周辺が変色することがあります。故障ではありません。
- 紫外線センサーは水の中では動作できません。
- UV チェッカーと実際の紫外線量が異なることがあります。肌を紫外線から守るため、日焼け止めクリームを使用するなどしてください。
- UV チェッカーで「弱め（安心して外で過ごせます。）」として表示されたときでも、安全であるという意味ではありません。
- 周囲の環境および状況によって、UV チェッカーの計測時間が変わることがあります。

著作権などについて

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作物および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製(データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守のうえ、適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。また、本製品にはカメラ機能が搭載されていますが、本カメラ機能を使用して記録したものにつきましても、上記と同様の適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。
本機に搭載のソフトウェアは著作物であり、著作権、著作者人格権などをはじめとする著作者等の権利が含まれており、これらの権利は著作権法により保護されています。ソフトウェアの全部または一部を複製、修正あるいは改変したり、ハードウェアから分離したり、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング等は行わないでください。第三者にこのような行為をさせることも同様です。

登録商標について

- 下記一件または複数の米国特許またはそれに対応する他国の特許権に基づき、QUALCOMM 社よりライセンスされています。

  Licensed by QUALCOMM Incorporated under one or more of the following United States Patents and/or their counterparts in other nations:

  4,901,307 5,490,165 5,056,109 5,504,773
  5,101,501 5,506,865 5,109,390 5,511,073
  5,228,054 5,535,239 5,267,261 5,544,196
  5,267,262 5,568,483 5,337,338 5,600,754
  5,414,796 5,657,420 5,416,797 5,659,569
  5,710,784 5,778,338
- TV コール、S! メール、PC サイトブラウザ、S! 速報ニュース、S! アプリ、S! 電話帳バックアップ、デコレメール、楽デコ、フィーリングメール、S! 情報チャンネル、お天気アイコン、S-1 バトル、コンテンツ得パック、選べるかんたん、ともだちメール、タダデコ、タダコミ、タダゲーム、タダ歌ばんはソフトバンクモバイル株式会社の登録商標または商標です。
- SOFTBANK およびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンク株式会社の登録商標または商標です。
- 「Yahoo!」および「Yahoo!」「Y!」のロゴマークは、米国 Yahoo! Inc. の登録商標または商標です。
- This product contains ACCESS Co., Ltd.'s NetFront Internet browser software.NetFront is a trademark or registered trademark of ACCESS Co., Ltd. in Japan and in other countries.

  ACCESS NetFront®
- 本製品のソフトウェアの一部に、Independent JPEG Group が開発したモジュールが含まれています。
- THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i) ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE MPEG-4 VISUAL STANDARD ("MPEG-4 VIDEO") AND/OR (ii) DECODING MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NONCOMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE MPEG-4 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, LLC. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM.
- Contains Macromedia® Flash® Flash Lite™ technology by Adobe Systems Incorporated.

- Macromedia, Flash, Macromedia Flash, and Macromedia Flash Lite are trademarks or registered trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and other countries.
- この製品では、株式会社アプリックスが Java™ アプリケーションの実行速度が速くなるように設計した JBlend™ が搭載されています。
- Powered by JBlend™ Technology.JBlend および JBlend ロゴマークは、株式会社アプリックスの商標または登録商標です。

- JBlend および JBlend に関連する商標は、日本およびその他の国における株式会社アプリックスの商標または登録商標です。
- Java および Java に関連する商標は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

- 「着うた®」「着うたフル®」は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテイメントの登録商標です。
- microSD™、microSDHC™ は SD アソシエーションの商標です。

- QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

- Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- 「BookSurfing」は株式会社セルシス、株式会社ボイジャー、株式会社インフォシティの登録商標です。
- Windows は Microsoft Windows operating system の略称として表記しています。
- その他の記載している会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本機の比吸収率（SAR）について

本機の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。

この技術基準は、人体頭部のそばで使用する携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体頭部に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR：Specific Absorption Rate)について、これが 2 W/kg※の許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分な安全率を含んでおり、世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が示した国際的なガイドラインと同じ値になっています。
すべての機種の携帯電話機は、発売開始前に、電波法に基づき国の技術基準に適合していることの証明(技術基準適合証明)を受ける必要があります。
この携帯電話機「840SC」も財団法人テレコムエンジニアリングセンターから技術基準適合証明を受けており、SAR は 0.183 W/kg です。この値は、技術基準適合証明のために財団法人テレコムエンジニアリングセンターによって取得されたものであり、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。
個々の製品によって SAR に多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常 SAR はより小さい値となります。
SAR について、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ
http://www.tele.soumu.go.jp/j/ele/index.htm

社団法人電波産業会のホームページ
http://www.arib-emf.org/

※ 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第 14 条の 2）で規定されています。

「ソフトバンクのボディ SAR ポリシー」について

＊ ボディ（身体）SAR とは：携帯電話機本体を身体に装着した状態で、携帯電話機にイヤホンマイク等を装着して連続通話をした場合の最大送信電力時での比吸収率（SAR）のことです。

＊＊比吸収率（SAR）：6 分間連続通話状態で測定した値を掲載しています。当社では、ボディ SAR に関する技術基準として、欧州における情報を掲載しています。詳細は「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」をご参照ください。

＊＊＊身体装着の場合：一般的な携帯電話の装着法として身体から 1.5 センチに距離を保ち携帯電話機の背面を身体に向ける位置で測定試験を実施しています。電波ばく露要件を満たすためには、身体から 1.5 センチの距離に携帯電話を固定出来る装身具を使用し、ベルトクリップやホルスター等には金属部品の含まれていないものを選んでください。

ソフトバンクモバイルのホームページからも内容をご確認いただけます。
http://www.softbankmobile.co.jp/ja/info/public/emf/emf02.html

「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」

この携帯電話機「840SC」は無線送受信機器です。本品は国際指針の推奨する電波の許容値を超えないことを確認しています。この指針は、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率（SAR: Specific Absorption Rate）という単位を用いて測定します。携帯機器における SAR 許容値は２W/kg で、身体に装着した場合の SAR の最高値は 0.183 W/kg※です。

SAR 測定の際には、送信電力を最大にして測定するため、実際に通話している状態では、通常 SAR はより小さい値となります。これは、携帯電話機は、通信に必要な最低限の送信電力で基地局との通信を行うように設計されているためです。世界保健機関は、モバイル機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関のホームページ

http://www.who.int/emf（英文のみ）

※ 身体に装着した場合の測定試験は、FCC が定めた基準に従って実施されています。値は欧州の条件に基づいたものです。

Safety Precautions

Read safety precautions before using handset.

- Observe precautions to avoid injury to self or others, or damage to property.
- SoftBank is not liable for any damages resulting from use of this product.

These labels indicate the degree of risk from improper use.
Make sure you thoroughly understand their meanings before reading on.

Danger	Great risk of death or serious injury*1 from improper use
Warning	Risk of death or serious injury*1 from improper use
Caution	Risk of injury*2 or damage to property*3 from improper use

***1** "Serious injury" includes blindness, wounds, low/high heat burns, electric shock, bone fractures, poisoning or other physical harm with aftereffects, or requiring hospitalization or ongoing hospital visits.

***2** "Injury" includes wounds, burns, electric shock or other physical harm not requiring hospitalization or ongoing hospital visits.

***3** "Damage to property" includes damage to home, furniture, livestock, pets, etc.

These symbols indicate prohibited or compulsory actions.
Make sure you thoroughly understand their meanings before reading on.

Prohibited	Prohibited actions
Do Not Disassemble	Disassembly prohibited
Avoid Liquids Or Moisture	Exposure to liquids prohibited
Do Not Use Wet Hands	Use with wet hands prohibited
Compulsory	Compulsory actions
Disconnect Power Source	Unplug Charger from outlet

Handset, Battery, USIM Card, Charger (Sold Separately) & Memory Card (Sold Separately)

Danger

Use specified battery and Charger (sold separately) only.

Non-specified equipment use may cause battery to leak, overheat, burst or ignite, and may cause Charger to overheat, ignite, malfunction, etc.

Do not disassemble, modify or solder handset or related hardware.

May cause fire, injury, electric shock or malfunction.
Battery may leak, overheat, burst or ignite.
Modifying handsets is prohibited by the Radio Law and subject to a penalty.

Do not expose inside of the handset or related hardware to liquids.

Do not leave handset or related hardware wet after exposure to water, pet urine, etc., and do not charge wet battery. May cause overheating, electric shock, fire, injury or malfunction. Use them in an appropriate place properly.

Do not charge battery in or expose handset or related hardware to extreme heat (e.g., near fire or sources of heat, in direct sunlight, inside vehicles, etc.).

May cause warping/malfunction; battery may leak, overheat, ignite or burst. Handset or related hardware may become hot to the touch, leading to burn injuries, etc.

Do not force battery/Charger into handset. Check the direction and retry.

Battery may leak, overheat, burst, ignite, etc.

Warning

Do not place handset, battery or Charger in/on ovens, microwave ovens, pressure cookers, induction stoves or other cooking appliances.

Battery may leak, overheat, burst or ignite. Handset/Charger may overheat, emit smoke, ignite, malfunction, etc.

Keep handset off and Charger disconnected near gas stations or places with fire/explosion risk.

Handset use near petrochemicals or other flammables may cause fire/explosion.
To prevent fire or explosion, do not use handset near gas or fine particles (Coal, dust, metal, etc.).

Do not apply strong shocks or impacts.

Do not drop/throw handset or related hardware. Battery may leak, overheat, burst or ignite, resulting in fire, electric shock, malfunction, etc.

If there is unusual sound/odor, smoke or any other abnormality:

Continued use may cause fire, electric shock, etc.; grasp plug to disconnect Charger from connector.

Keep liquids (water, pet urine, etc.) or conductive material (pencil lead, metallic strip, metal jewelry, etc.) away from Charging terminals, External Device.

May cause short circuit, resulting in fire, malfunction, etc.

⚠Caution

Do not place handset or related hardware on unstable surfaces.

Handset or related hardware may fall, resulting in injury, malfunction, etc.; be especially careful when Vibration is set or during Charge.

Keep handset and related hardware out of infants' reach.

Infants may choke from swallowing handset or related hardware or be injured, etc.

If your child is using handset and related hardware, explain all instructions and supervise usage.

Misuse may cause injury, etc.

Battery

Danger

Read battery label to confirm battery type; use/dispose of battery accordingly.

Display	Battery type
Li-ion00	Lithium-ion

Do not dispose of battery in fire.

Battery may leak, burst, ignite, etc.

Do not damage battery (with a nail, hammer, foot, etc.) or subject it to strong impacts or shocks.

Battery may leak, overheat, burst, ignite, etc.

Keep wire or other metal objects away from battery terminals. Do not carry/store battery with conductive material (pencil lead, metallic strip, metal jewelry, etc.).

Battery may leak, overheat, burst, ignite, etc.

If battery fluid gets in eyes, do not rub; rinse with water and consult a doctor immediately.

Eyes may be severely damaged.

Warning

If battery fluid contacts skin or clothes, discontinue handset use and rinse with clean water immediately.

May cause skin damage.

If battery does not charge properly, stop trying.

Battery may leak, overheat, burst, ignite, etc.

If there is abnormal odor, excessive heat, discoloration or distortion, remove battery, being careful not to burn or injure yourself. Avoid fire sources.

Compulsory

Continued use may cause battery to leak, overheat, burst, ignite, etc.

Caution

Do not dispose of an exhausted battery with ordinary refuse.

Prohibited

Tape over battery terminals before disposal. Take battery to a SoftBank Shop, or follow the local disposal regulations.

Handset

Warning

Do not use handset while driving or cycling.

Prohibited

Accidents may result.
Phone use while driving or cycling is prohibited by law and subject to a penalty; park in a legal parking space beforehand.

Turn handset power off near electronic devices that employ high precision control systems or weak signals.

Compulsory

May cause electronic malfunctions, etc. Be especially careful near the following devices:
Hearing aids, implanted pacemakers/defibrillators and other electronic medical equipment; fire alarms, automatic doors and other automatic control devices.

Because handset radio waves may impair aircraft operations, please power off handset while aboard.

Compulsory

When handset use aboard aircraft is allowed, please follow instructions of airline personnel.

Users with a heart condition should adjust ringtone Vibration and Volume as needed.

Compulsory

May cause heart damage.

If thunder is heard while outdoors, turn power off; find cover.

Compulsory

There is a risk of lightning strike or electric shock.

Do not look into Infrared Port during infrared transmissions.

Prohibited

Eyesight may be affected.

Caution

Do not use handset when it may affect a vehicle's electronic equipment.

Prohibited

Handset use inside vehicles may cause electronic equipment to malfunction, resulting in accidents.

If you experience any skin irritation associated with handset use, discontinue handset use and consult a doctor.

Compulsory

Metal and other materials may cause skin irritation, rashes, or itchiness depending on your physical condition.

Parts	Materials & Finishing
Housing (upper)	PC/SPRAY
Housing (lower)	PC+GF20%(STS INSERT)/SPRAY
Housing (front)	PC+GF20%/SPRAY
Housing (rear)	PC+GF20%/SPRAY
Upper DECO	PC/SPRAY
Keypad	PC/SPRAY
Side Key	PC+POLYURETHANE/SPRAY
Battery Cover	PC+GF20%/SPRAY

Keep handset away from magnetic cards, etc.

Prohibited

Data on bank cards, credit cards, telephone cards, floppy disks, etc. may be lost.

Do not swing handset by strap.

Prohibited

May harm self or others; strap may break, resulting in injury or handset malfunction/breakage.

Handset may become hot while in use, especially at high temperature.

Compulsory

Prolonged contact with skin may cause burn injuries.

Always maintain some distance from Speaker while ringtones, music or other handset sounds play.

Prohibited

Excessive volume may damage ears or hearing.

When view Digital TV, be sure to view in place with enough light and view from distance, otherwise it may cause decrease in vision.

Compulsory

Moderate handset volume when using Earphone Microphone.

Compulsory

Excessive volume may damage ears or hearing.

Charger (Sold Separately)

Warning

Do not cover/wrap Charger while charging.

Prohibited

Charger may overheat, resulting in fire, malfunction, etc.

Use only the specified voltage.

Non-specified voltages may cause fire, malfunction, etc.

- AC Adapter (sold separately): AC 100V-240V (only for household wall sockets).

Leave Charger unplugged during periods of disuse; grasp plug to disconnect it.

May cause electric shock, fire or malfunction.

If liquids (water, pet urine, etc.) seep inside Charger, grasp plug from outlet and disconnect Charger immediately.

May cause electric shock, smoke/fire.

If plug is dusty, grasp it and disconnect Charger, then clean with a dry cloth.

Fire may result.

Plug Charger firmly into the outlet, keeping the plug and Charger charging terminals away from conductive material (pencil lead, metallic strip, metal jewelry, etc.).

May cause electric shock, short circuit, fire, etc.

Do not touch Charger plug with wet hands.

May cause electric shock or malfunction, etc.

Do not touch Charger if thunder is heard.

May cause electric shock, etc.

Caution

Grasp plug and disconnect Charger from outlet before cleaning.

May cause electric shock, etc.

Always grasp plug (not cord) to disconnect Charger from outlet.

Pulling the plug by cord may damage cord, causing electric shock, fire, etc.

Do not subject Charger (sold separately) to strong shocks or impacts while it is plugged into the outlet.

May cause malfunction or injury.

Handset Use & Electronic Medical Equipment

This section is based on "Guidelines on the Use of Radio Communications Equipment such as Cellular Telephones and Safeguards for Electronic Medical Equipment" (Electromagnetic Compatibility Conference, April 1997) and "Report of Investigation of the Effects of Radio Waves on Medical Equipment, etc." (Association of Radio Industries and Businesses, March 2001).

Persons with implanted pacemaker/defibrillator should keep handset more than 22 cm away.

Radio waves may interfere with implanted pacemakers or defibrillators.

If you intend to use electronic medical equipment other than implanted pacemaker/defibrillator outside medical facilities, consult the vendor on radio wave effects.

Radio waves may interfere with electronic medical equipment.

Observe these rules inside medical facilities to avoid effects of radio waves on electronic medical equipment:

- Do not enter an operating room or an Intensive or Coronary Care Unit while carrying a handset.
- Keep handset off in hospitals; cancel the setting that turns handset power on automatically (alarm, etc.) beforehand.
- Even in lobbies or other places where handset use is permitted, keep handset off near electronic medical equipment.
- Obey medical facility rules on mobile phone use.

Turn handset off in crowds or trains where persons with implanted pacemaker/defibrillator may be near; cancel the setting that turns handset power on automatically (alarm, etc.) beforehand.

Radio waves may interfere with implanted pacemakers or defibrillators causing such devices to malfunction.

General Notes

General Use

- SoftBank is not liable for any damage resulting from accidental loss/alteration of any data on handset/Memory Card. Please keep separate records of Phonebook entries, etc.
- Handset transmissions may be disrupted inside buildings, tunnels, or underground, or when moving into/out of such places.
- Use handset without disturbing others.
- Handsets are radios as stipulated by the Radio Law. Under the Radio Law, handsets must be submitted for inspection upon request.
- Handset use near landlines, TVs or radios may cause interference.
- **Beware of eavesdropping.**
  Because this service is completely digital, the possibility of signal interception is greatly reduced. However, some transmissions may be overheard.
  - **Eavesdropping**
    Deliberate/accidental interception of communications constitutes eavesdropping.

Inside Vehicles

- Never use handset while driving.
- Do not park illegally to use handset.
- Handset use may affect a vehicle's electronic equipment.

Aboard Aircraft

- Because handset radio waves may impair aircraftoperations, please power off handset while aboard.
  When handset use aboard aircraft is allowed, please follow instructions of airline personnel.

Function Usage Limits

- The following functions are disabled after handset upgrade/replacement or service cancellation:
  - Camera
  - Media Player
  - S! Appli
  - TV
- After a long period of disuse, these functions may be unusable; establish a Network connection to restore usability.

Handset Care

- If handset is left with no battery or an exhausted one, data may be altered/lost. SoftBank Mobile is not liable for any resulting damage.
- Use handset between 5°C - 35°C. Avoid extreme temperatures/direct sunlight.
- Exposing the lens to direct sunlight may damage the color filter and affect image color.
- Do not drop or subject handset to shocks.
- Clean handset with a dry, soft cloth. Using alcohol, thinner, etc. may damage it.
- Never disassemble or modify handset.
- Avoid scratching Display.
- When using headphones, moderate the volume to avoid sound bleed.
- Heavy objects or excessive pressure should be avoided. This may cause malfunction or injury.
  - Do not sit down with handset in a back pocket.
  - Do not place heavy objects on handset in a bag.

- Insert only specified devices into Headphone Port. Malfunction or damage may result.
- Always turn power off before removing battery. If battery is removed while saving data or sending mail, data may be lost, changed or destroyed.

Phenomena of the Keypad Surface Swelling up

- The keypad surface might swell up due to drastic atmospheric changes (alpine regions, aboard in-flight aircraft, etc.) when the Battery Cover is in place. This is not an anomaly. It will return to normal after a while.
- If air has entered into the handset, open Port Cover to release the air.
- Slowly close the Battery Cover when closing it so that outside air does not enter in.
- Make sure to not damage the protruding points when firmly pressing on the swollen up parts on the keypad surface. They will return to normal after a while.

Water Resistance

840SC Water Resistance

840SC complies with IPX5 (former JIS protection level 5)[*1] and IPX7 (JIS protection level 7)[*2] water protection standards, with Port Covers closed and Battery Cover locked firmly.

*1 IPX5 compliant means that this handset continues to function as a phone after being subjected to a water jet (approximately 12.5 liters/min.) discharged from a nozzle (inner diameter: 6.3 mm), from all directions (approximately 3 m from handset) for at least 3 minutes.

*2 IPX7 compliant means that this handset continues to function as a phone and no water seeps inside after being gently lowered into a tank filled with still tap water (at room temperature) to the depth of 1 m, and immersed at the bottom for approximately 30 minutes.

- **Malfunction resulting from misuse is not covered by the warranty.**

Notes on Usage

- Lock Battery Cover and close Port Covers firmly. If even a mere tiny foreign particle (one strand of hair, one grain of sand, minute fibers, etc.) gets into the contact surfaces, this will produce the effect of water exposure.
- If Battery/Port Covers are left open liquid exposure may cause handset malfunction/electric shock. Power handset off, then remove battery.
- Since moisture might seep into the crevices between the keypad and hinges when the handset gets wet, remove any water and wipe off the handset with a clean dry cloth. Do not allow it to remain wet.
- In order to prevent water from getting inside when the handset is exposed to water droplets in the rain, or when one's hands or the handset get wet, absolutely do not open the Battery Cover or Port Cover. Slowly open the Battery Cover or Port Cover after the handset has completely dried out. In the event that liquid does get inside, do not use the phone, switch it off, remove the battery pack, then take it to a SoftBank Shop.
- In order to prevent water from getting inside when the areas around the Port Cover and the Battery Cover are wet, slowly open and close the Battery Cover after the handset has completely dried out.
- Handset is resistant to fresh/tap water at normal temperature (5°C - 35°C) only.

Precautions

- Do not expose the handset to or apply to it any liquids (soaps, detergents, soapy water, seawater, swimming pool water, hot spring water, boiling water, chemicals, and perspiration, etc.) other than fresh water or tap water. In addition, do not allow the handset to come into contact with sand or mud.
- If it was exposed to any liquids other than fresh water or tap water, immediately rinse off the handset with water. Position the handset approximately 10 cm. away from a tap or shower head where it can be washed off with a slightly weak low pressure water flow (less than 6 liters per minute, ambient temperature tap water (5°C - 35°C)). Wash the handset off by hand, do not use brushes or sponges, and do so with the Battery Cover in place and locked, while keeping Port Cover pressed in.

- Do not expose the handset to bathtubs or swimming pools. In addition, do not use (includes opening and closing the handset and keypad operations) it while in the water.
- Handset was not designed to be water pressure resistant. Do not expose it to strongly flowing (exceeding 6 liters per minute) tap water or shower water, and do not drop it onto water surfaces, or submerge it in water.
- Do not expose handset to extreme humidity for long periods; avoid prolonged use in bath/shower rooms.
- Use handset within 5°C - 35°C (up to 40°C for temporary use in bath/shower rooms, etc.) and 35% - 90% humidity.
- Handset is not heat-resistant. Do not use in saunas. Avoid hot air from dryers, etc.
- Avoid extreme temperatures (e.g., near stoves, inside refrigerators, etc.).
- Volume may be low when Microphone/Earpiece/Speaker is wet; dry handset before use. After drying out, the volume will return to normal.
- Avoid placing handset directly on sand. Sand may penetrate Earpiece, Speaker, etc., resulting in low volume.
- Do not move handset directly from a cold place to a warm humid place; condensation may occur. Should this happen, dry handset naturally at room temperature.
- 840SC does not float on water.
- Keep handset out of heavy rain.
- Do not let liquid-exposed handset remain wet; exposure to cold may freeze liquid causing malfunction.

Maintaining Waterproof Performance

- Do not subject handset to strong shocks or impacts; do not poke Microphone, Earpiece, Speaker, etc. with a cotton swab or sharp object;
- Port Cover and gasket play the important role of maintaining waterproofness. Do not remove or damage them. In addition, do not allow foreign particles to adhere to them.
- Do not insert sharp objects through Port Cover gaps; may damage gasket and affect water resistance.
- Do not leave Port Cover bent back for prolonged periods of time to plug in earphonemicrophone or Charger. It might deform the Port Cover and waterproofness might not be maintained.
- If Port Cover gasket is damaged or deformed, replace it with a new one.
- To maintain water resistance, replace gaskets every two years regardless of their condition. For gasket replacements, contact a SoftBank Shop.
- Damaged Battery/ Port Cover affects water resistance; contact a SoftBank Shop.

Charging Precautions

- Battery and optional accessories are not waterproofed. Avoid exposure to liquids or high humidity (e.g., precipitation, bath/shower room, restroom, etc.); may cause fire, electric shock or damage.
- Never charge battery while handset is wet; may cause fire or damage due to electric shock or short-circuit.
- Close Port Cover firmly after charging via External Device Port.
- Do not touch Charger with wet hands. Electric shock may occur.
- Do not use Charger in rooms in which water is regularly in use (kitchen, bath/shower room, etc.); may cause fire or electric shock.

If handset get soaked, see " 水抜きのしかた "(➔P.15-6).

If Port Cover get detached, see "端子キャップの取り付けかた"(➔P.15-7).

Precautions Regarding the UV Checker

- In order to be able to take correct measurements when using the UV Checker, aim the UV Sensor two or three times at the sun.
- The UV Checker may not be able to take correct measurements since it might be influenced by the weather and surrounding buildings.
- Use the UV Checker as a reference since it might not be able to take correct measurements.
- Correct measurements might not be taken if the UV Sensor is soiled (fingerprints, foreign particles, etc.).
- Be aware that the UV Sensor might be damaged by drastic temperature fluctuations.
- The UV Sensor may not function if the handset is dropped, or suffers a strong impact.
- Do not allow the UV Sensor to remain exposed (opened handset) to strong sunlight and ultraviolet rays. Be aware that this might damage the sensor.
- The UV Checker does not function when the handset is closed. Use it with the handset opened.
- If the UV Checker is successively used, it may not function normally.
- The area surrounding the UV Sensor might become discolored due to prolonged usage. This is not a malfunction.
- The UV Sensor cannot function in water.
- The actual intensity of the ultraviolet light might vary with the measurements of the UV Checker. Always use sunblock lotion etc. to protect one's skin from ultraviolet rays.
- Even though the UV Checker shows, "Not strong (you can safely spend time outside)," this does not mean that one is safe.
- The UV Checker's measurement times may vary depending upon the surrounding environment and conditions.

Copyrights

Copyright laws protect sounds, images, computer programs, databases, other materials for copyright holders. Duplicated material is limited to private use only.
Use of materials beyond this limit or without permission of copyright holders may constitute copyright infringement, and be subject to criminal punishment. Comply with copyright laws when using images captured with handset camera.
The software contained in 840SC is copyrighted material; copyright, moral right, and other related rights are protected by copyright laws. Do not copy, modify, alter, disassemble, decompile, or reverse-engineer the software, and do not separate it from hardware in whole or part.

SAR Certification

840SC meets the technical standards of Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC) regarding radio wave absorption by a human body.

These technical standards are established on a scientific basis to prevent radio waves emitted from wireless devices such as mobile phones that are used close to human head from affecting human health. These standards assure that the SAR (Specific Absorption Rate), an indicator of the amount of average energy absorbed in the side of a human head, must not exceed the permissive value of 2W/kg*. This value includes a substantial safety margin designated to assure the safety of all persons, regardless of age and physical size. The value is equal to the international guideline recommended by International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP) that has a cooperative relationship with the World Health Organization (WHO).

The highest SAR value for 840SC is 0.183 W/kg. This value is obtained in accordance with the MIC testing procedure with the mobile phone transmitting at its highest permitted power level. While there may be differences in the SAR levels depending on phones, they all meet the MIC's permissible value. Because mobile phones are designed to employ the minimum power level required for the communication with the base station, the SAR of the phone during a call is usually below the maximum value.

For further information about SAR, please see the following websites:

MIC: http://www.tele.soumu.go.jp/j/ele/index.htm

ARIB: http://www.arib-emf.org/

* The guideline is defined by relevant laws and regulations associated with the Radio Law (No. 2 of Article 14 of Ordinance Regulating Radio Equipment).

SoftBank's Body SAR Policy

* Body SAR: The SAR value at the maximum transmission power when continuously talking with handset placed on the body and using earphone-microphone.

** Specific Absorption Rate (SAR): The value measured when having talked continuously for 6 minutes.

*** Placement on the body: Measurements are taken with the rear of handset facing the body at a distance of 1.5 cm as the ordinary handset position. In order to comply with radio frequency exposure requirements, use an accessory (e.g. belt clip, holster) that does not contain metallic parts to maintain a 1.5 cm separation between the body and handset.

For further information, see the following SoftBank website:

http://www.softbankmobile.co.jp/ja/info/public/emf/emf02.html

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.
The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 0.737 W/kg*. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body as described in this user guide. In this case, the highest tested SAR value is 0.183 W/kg.
As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.
The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

メモ